

※ 本コラムは、共同通信社より配信されたものです。

## 女性、若者が投資家に

### 1990年代末にエコファンド

社会全体の中で企業が果たす役割が大きくなり、環境、人権問題などへの対応を重視する投資家も増えてきました。

国内では、1999年に登場した日興証券(現SMBC日興証券)グループの投資信託「日興エコファンド」が登場しました。グッドバンカー社も商品開発に協力し、運用資産は発売から4カ月で1千億円に達するヒット商品になりました。購入者のほとんどは、投資経験のない女性や若者だったことから、新しい投資家層の出現として注目されました。

企業の倫理や責任に注目する投資の先駆けは、1920年代の米国に見られます。酒、タバコ、ギャンブルに関連した産業に、教会の基金を投資するのを避けたそうです。

1960年代には、ベトナム戦争に反対して軍需産業への投資をボイコットする運動がありました。1970年代になると、消費者運動と連携した「グリーンインベスター(緑の投資家)」が現れました。

社会的責任を問われる側の企業の姿勢も変化してきました。1980年代半ばには、アパルトヘイト(人種隔離)政策をとる南アフリカ共和国に投資している企業の株式を売却する大きなキャンペーンが展開され、米国のIBM、ゼネラル・モーターズ(GM)などが南アでのビジネスを大幅に縮小あるいは停止しました。これが南アにアパルトヘイトを終わらせる一つの要因になったと言われています。

1990年代には、環境問題の解決につながる技術やサービスに集中投資する「グリーンファンド」が欧米で生まれました。

社会が抱えるさまざまな問題を改善するための手法として「社会的責任投資(SRI)」という呼び方が生まれました。最近では女性の起用や公正な運営を求め、企業統治(ガバナンス)も重視されます。労働組合、公的年金などが、こうした手法に基づいて投資し、影響が広がってきました。(株式会社グッドバンカー)